

図書空間で
つなぐ&楽しむ研究交流



旅の図書館では、観光に関わる皆様の
交流を深めていただくことをねらいとして、
「たびとしょCafe」を開催しています。



公益財団法人日本交通公社
旅の図書館
LIBRARY OF TOURISM CULTURE



のススメ



旅行・観光をテーマとした専門図書館である「旅の図書館」は、1978(昭和53)年の開設以来、旅行・観光に関する様々な情報と出会える場所として、一般の方から観光の実務や研究に関わる方まで多くの方にご利用いただいています。

2014(平成26)年からは、観光に関わる“人と情報”“人と人”の交流機会を提供すべく、誰でも参加可能なミニシンポジウム「たびとしょCafe」を企画実施しています。毎回テーマに応じたゲストスピーカーをお招きし、前半はゲストスピーカーからの話題提供、後半は参加者や当財団研究員を交えての質疑応答というスタイルです。ゲストスピーカー、参加者、当財団研究員がフラットに交流し、知見の共有やネットワーク構築につなげることで、各自の活動へのヒントを得ていただくことを目指しています。

2014年の開始から現在に至るまで、実に26名ものゲストスピーカーをお招きし、様々なテーマでお話をいただきました。今回のギャラリー展示では、最近の「たびとしょCafe」の様子を、印象的な言葉とともにご紹介します。



旅の図書館

旅の図書館には、観光関連の学術誌や観光統計資料の他、古書・稀覯書、ガイドブック、時刻表、機内誌、観光研究の専門図書、財団の刊行物・出版物など観光研究の参考に資する図書が、約6万冊所蔵されています。

旅の図書館は、「観光はそれ自体が文化であり、その観光文化を向上させたい」という理念を掲げ、1978(昭和53)年に開設されました。多様な蔵書をひもとくと、観光の世界の奥深さに驚かされ、より素敵な旅へと出かけたくなります。

また、旅の図書館は「観光の研究や実務に役立つ図書館」です。観光研究者や現場で働く実務者の皆様は、ぜひ、様々な文献から“研究の種”を、多くの参考事例から観光政策や観光地づくりの“現場に活かすヒント”を見つけてください。

観光研究・情報プラットフォームとして

旅の図書館では、研究部門との一体的な運営というメリットを活かして、蔵書閲覧サービスの他にも、「たびとしょCafe」や、最新の研究成果や古書を展示する「館内展示」など、観光分野の研究成果と人をつなぐ取り組みを積極的に行っています。

これからも、観光に関わる研究成果をより多くの皆様と共有し、様々な情報や人との出会いが生まれる場を創出していきます。



観光とは、地域に存在する資源の魅力を感じることであり、
優れた観光とは、旅行者が地域を学ぶ、理解するというプロセスを経ること。
長距離を時間をかけて歩くロングトレイルは、地域の深い理解につながる。

—— 櫻庭 佑輔氏

第17回 たびとしょCafe

東北1,000kmをつなぐ“みちのく潮風トレイル” ～自然を生かした地域の活躍の場づくり～

2019年7月24日(水)、「東北1,000kmをつなぐ“みちのく潮風トレイル”～自然資源を生かした地域の活躍の場づくり～」をテーマに、第17回たびとしょCafeを開催しました。ゲストスピーカーには、みちのく潮風トレイル開通の立役者の一人である、環境省東北地方環境事務所の櫻庭 佑輔氏をお招きしました。

このトレイルの大きな特徴は、日本最長のロングトレイルであることと、地域の人たち自身が作り上げたトレイルであることです。青森、岩手、宮城、福島の4県28市町村をつなぐ全長1,025kmのトレイルは、200回を超えるワークショップと現地調査の積み重ねにより作られました。

この長い道をよその人が自分の足で歩いてじっくり旅することで、地域の価値に気づき地域の応援者になること、そうした人が増えることで、地域に住まう人たち自身も地域の価値に気づく機会を作ることが、みちのく潮風トレイルの大きな目的だとお話いただきました。

詳細はコチラから ▶



街の見た目は変わっていたとしても、
“銀座らしさとは何か”を自問自答する日々の積み重ねが、
100年後も「やっぱり銀座はいいわね」と言ってもらうための基礎になる。

—— 竹沢 えり子氏

第18回 たびとしょCafe

銀座のまちづくり ～変わり続けるまちのルール～

2019年10月8日(火)、「銀座のまちづくり～変わり続けるまちのルール～」をテーマに、第18回たびとしょCafeを開催しました。ゲストスピーカーには、銀座のまちづくりに長年携わっていらっしゃる、全銀座会・(一社)銀座通連合会・銀座街づくり会議 事務局長の竹沢 えり子氏をお招きしました。

銀座は、明治の火事、関東大震災、第二次世界大戦と、たびたび街の姿を大きく変えながらも、「やっぱり銀座はいいわね」と愛され続けてきました。“憧れの街”銀座を支えてきたのは、銀座のみなさんによる「銀座らしさ」の探求と、それを引き継いでいこうという強い意思です。

ここ10年は建物の入れ替わりも激しく、世界から多くの人が集まるようになり、銀座でも大きな変化の時を迎えています。100年後も「やっぱり銀座はいいね」「銀座らしいわね」と言っていただけよう、取り組んでいきたいとお話いただきました。

詳細はコチラから ▶



観光は文化のプロモーターになり得る。
 地域固有の文化は観光客によって外部から評価されることで地域の誇りとなり、
 その誇りが文化の継承と創造への原動力となる。

—— 村上 佳代氏

第19回 たびとしょCafe

文化・文化財の観光活用について
 ～文化庁の取り組み～

2020年1月24日(金)、「文化・文化財の観光活用について～文化庁の取り組み～」をテーマに、第19回たびとしょCafeを開催しました。ゲストスピーカーには、文化庁初の観光分野の専門職としてご活躍中の文化庁 地域文化創生本部 広域文化観光・まちづくりグループ 文化財調査官の村上佳代氏をお招きしました。

2016年の「明日の日本を支える観光ビジョン」以降、文化芸術振興基本法改正や文化庁の京都移転・機能強化、文化財保護法改正をはじめとする、文化財の活用をめぐる諸制度の整備が進み、議論が高まっています。「観光は文化のプロモーター」であり、観光客が地域の文化に親しみ感動することで地域の中に誇りが生まれ、地域固有の文化の継承や発展につながり、そのことがさらに地域の魅力アップにつながっていくという、良い循環の形が望まれます。一方で、この良い循環が実現するためには、地域や文化と観光とのバランスを保つことが不可欠とお話いただきました。

詳細はコチラから ▶ 



地域の暮らし、文化と美しい景観、そしてそれらを維持してきた住民。
 これらは“何もない”と言われる地域でも必ずあるもので、
 ここに人を惹きつけてやまない価値が宿っている。

—— 伊藤 清花氏

第20回 たびとしょCafe

地域・社会が一体で取り組む歴史的建築物の活用
 ～一般社団法人ノオトの活動の現場から～

2020年12月4日(金)、「地域・社会が一体で取り組む歴史的建築物の活用～一般社団法人ノオトの活動の現場から～」をテーマに、第20回たびとしょCafeを開催しました。ゲストスピーカーには、一般社団法人ノオト 代表理事の伊藤 清花氏をお招きしました。

ノオトは、地域の“ローカル”な暮らしの中にこそ未来につなぐべき本当の豊かさがあると考え、「郷にいること」をキーワードに活動しています。「なつかしい日本の暮らし」の継承のために“グローバル”な事業はあくまで手段として捉える姿勢は、古民家や地域性を事業差別化のための付加価値として捉える姿勢と一線を画しています。

暮らし・文化・人・景観という地域の何気ない価値を見出し、その価値を奇をてらわずに伝えること、経済効果の大きさに目を向けるのではなく、無理なく続けられる仕組みを考え続けることが、事業化のポイントだとお話いただきました。

詳細はコチラから ▶ 



これまでの **たびとしょCafe** 一覧

これからも多くの“気づき”を得られるような「たびとしょCafe」を開催していきますのでご期待ください。
皆様のご参加をお待ちしています。

	開催時期	テーマ	ゲストスピーカー
第1回	2014年11月	アートが地域にもたらしたものは？ ～越後妻有大地の芸術祭を通じた地域づくりの現場から	関口 正洋氏 NPO法人越後妻有里山協働機構 事務局長
第2回	2015年3月	“アニメ聖地巡礼”から考える観光と地域の可能性	岡本 健氏 奈良県立大学地域創造学部 講師
第3回	2015年7月	寺社をとりまく旅の今 ～寺社コン、御朱印めぐりに集う若者たち～	堀内 克彦氏 宿坊研究会代表・寺社旅研究家
第4回	2015年8月	地域を元気にする「農産物直売所」のしかけ ～生産者と消費者をひきつける「産直市場よってって」の事例から～	野田 忠氏 (株)プラス 取締役会長／産直市場よってって
第5回	2015年9月	日本の“田舎(INAKA)”は宝物 ～当たり前前の再発見と価値づくり～	青山 佳世氏 フリーアナウンサー
第6回	2016年3月	いま伝えたい「日本」とは ～1920-30年代の日本の観光ポスターから考える～	木田 拓也氏 東京国立近代美術館工芸課 主任研究員
移 転 特 別 企 画		インバウンド受け入れのこれから	澤 功氏 旅館澤の屋 館主(当財団専門委員)
	2016年9月	農山山村再生—地方創生を超えて—	小田切 徳美氏 明治大学農学部 教授(当財団専門委員)
		ツーリズム半世紀—その成果と課題—	船山 龍二氏 元(株)ジェイティービー 会長(当財団評議員)
第7回	2017年1月	ICTで変わる観光の未来 ～観光地はデジタルシフトをどう捉えるか～	陳内 裕樹氏 グーグル株式会社広告営業本部 観光立国推進部長
第8回	2017年3月	近代日本における旅行案内書の歩み	荒山 正彦氏 関西学院大学文学部 教授
第9回	2017年6月	観光地づくりに必要なデザインの視点	市角 壮玄氏 アートディレクター・デザイナー
第10回	2017年8月	「観光資源評価」から考える日本の魅力の原点 ～観光資源の見方、見せ方～	溝尾 良隆氏 立教大学 名誉教授
第11回	2017年10月	人と地域、情報をつなげる図書館 ～観光と図書館の新たな連携スタイルを考える～	猪谷 千香氏 文筆家・ジャーナリスト
第12回	2018年2月	ツーリズム・リテラシーという考え方 ～産官学の連携と新たな観光文化の創出へ～	山口 誠氏 獨協大学外国語学部交流文化学科 教授
第13回	2018年7月	世界を魅了する飛騨高山のインバウンド戦略 ～独自の取り組み「戦略派遣」の展開～	江尻 英夫氏 高山市東京事務所 所長代理
第14回	2018年8月	観光都市ロンドンとはオリンピック・パラリンピックをどう捉えたか —建築空間・公共空間・景観を観光レガシーへ—	山崎 一也氏 山崎一也建築設計事務所 代表、女子美術大学 非常勤講師
第15回	2018年10月	古書から学ぶ未来へのヒント —日本の観光の課題とこれから—	西村 幸夫氏 神戸芸術工科大学 教授
第16回	2019年3月	進化するまちあるき ～「まいまい京都」の舞台裏から学ぶ～	以倉 敬之氏 まいまい京都 主宰
第17回	2019年7月	東北1,000kmをつなぐ“みちのく潮風トレイル” ～自然資源を生かした地域の活躍の場づくり～	櫻庭 佑輔氏 環境省東北地方環境事務所自然環境整備課 課長補佐
第18回	2019年10月	銀座のまちづくり ～変わり続けるまちのルール～	竹沢 えり子氏 全銀座会・(一社)銀座通連合会・銀座街づくり会議 事務局長
第19回	2020年1月	文化・文化財の観光活用について ～文化庁の取り組み～	村上 佳代氏 文化庁地域文化創生本部広域文化観光・まちづくりグループ 文化財調査官
第20回	2020年12月	地域・社会が一体で取り組む歴史的建築物の活用 ～一般社団法人ノオトの活動の現場から～	伊藤 清花氏 一般社団法人ノオト 代表理事
第21回	2021年1月	地域を観光で支える 株式会社DMC天童温泉の挑戦	鈴木 誠人氏 株式会社DMC天童温泉旅行事業課 リーダー
第22回	2021年3月	“非”観光地の観光協会のチャレンジ ～大分県津久見市観光協会の取り組み～	吉谷地 裕氏 津久見市観光協会 事務局長
第23回	2021年3月	中山間地域における交流・観光 ～久慈市の“ふるさと体験”～	二ツ神 一洋氏 久慈市産業経済部林業水産課 課長

※所属・役職は当時